



株式会社 若松

代表取締役 齊藤 俊一

受賞理由

東京都港区芝の22坪の自社ビルという限られた立地の中、ミニブルワリーとして祖業である酒蔵を100年振りに復活させ事業化に成功したこと。

熱意と粘りで100余年の時を越えて、祖業である酒造りを港区芝に復活。

当社は、現在の東京都港区芝の地に、初代が文化9(1812)年に酒造業を創業。幕末には、勝海舟、西郷隆盛などがうちの酒蔵に来たと言われています。しかし、1911年、酒税法の改正により酒蔵を閉じ、以来、飲食業、雑貨業、不動産業などをして7代目の私に至っています。

港区商店街連合会の役員として地方でシャッター商店街を目の当たりにし、このままでは東京の商店街もダメになる、何か活性化する核が必要だと思いました。同時に、地方でも酒蔵には観光客などが集まって来るのを見て、若松の祖業である

造り酒屋を復活させたいという思いが湧き上がってきたのです。2006年、お台場に出店していた伏見の大手酒造メーカーのミニブルワリーで杜氏の寺澤氏と出会いました。「こんなに小さい場所でもお酒を造ることができるのか」と大変驚き、杜氏の重要性を再確認しました。東京で酒造りと、杜氏を探しましたがなかなか見つかりませんでした。09年、お台場の店舗が閉鎖されたと知り、改めて寺澤氏に会って自分の酒造復活の思いを語り、一緒にやることに。自宅として使用していた港区芝の小さなビルの1、2階を醸造所に改装。新規で清酒免許を取ることは困難だったため、まず「その他の醸造酒免許」を取得して、どぶろくトリキュールを製造、販売。銘柄は若松の歴史から「江戸開城」と決めました。その後、5年をかけて廃業する酒蔵を買収して清酒免許も取得でき、いよいよ清酒づくりへ。

東京のど真ん中で酒造りを。
周囲を巻き込み歩み続ける「勇気」。



Passion for 祖業“酒造り”の再興

年商に匹敵する設備投資を実施し、法定酒造量(年間6万リットル)を製造できる醸造所に改装し、16年には東京の地酒の製造販売を本格的に始めたのです。多額の投資には周りの反対があり、これほど小さな醸造所は誰もやったことがないものでしたが、杜氏である寺澤氏の知見と技術もあり、何とか製造にこぎつけることができました。清酒製造の課題は水ですが、東京の水道水は高度浄水処理をしてある上質の中軟水で、伏見の水によく似ていると杜氏が言うほど酒づくりに適していました。

「江戸開城」は17年度東京国税局酒類鑑評会清酒純米燗酒部門で優秀賞を受賞。19年には当社の甘酒を使った首都圏限定「ポッキー東京あまざけ」がグリコから販売。地域活性化への寄与は始まったばかりです。今後は20年の東京オリンピック、25年の大阪万博などの機会もふまえて、東京の地酒を世界に発信していきたいと次なる構想も描いています。



企業データ

株式会社 若松

事業内容 酒造業、雑貨小売業、不動産賃貸業

- 本社所在地：東京都港区芝4-7-10
- 業 種：製造業
- 創 業：1812(文化9)年
- 従業員数：4人
- 資 本 金：4,000万円

- ① 港区芝にある東京港醸造の酒蔵
- ② 製造する純米吟醸「江戸開城」
- ③ 代表の齊藤氏(左)と杜氏の寺澤氏